



日本ビジネス実務学会 会報 76号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies, No. 76

発行日/2022年3月31日発行

編集/日本ビジネス実務学会(広報委員会)

事務局/〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98 藤田医科大学

医療科学部医療経営学領域内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

《ブロック研究会活動報告号》

会長あいさつ

「DX時代に向けて: “Cool Head, but Warm Heart”

— “人材育成の準備は万全か?” —

会長 米本倉基(藤田医科大学)



近代経済学の祖と言われるアルフレッド・マーシャル(Alfred Marshall)は、ロンドンの貧民街を歩き、その悲惨な状況に触れ、自分は「冷静な頭脳と温かい心(cool head, but warm heart)」を持ち、周囲の社会的苦難と格闘するために、持てる最良の力をすすんで傾けようとする経済学を深めようと決意したと言っています。それから160年経った今日、経済・経営学では、来るべきDX(デジタル・トランスフォーメーション)時代に備えたデジタル人材の育成を目指し、文理を問わず、数理、データサイエンス、AIを応用する力を持つ人材の育成を求めています。最近、私は、あらためてマーシャルの時代から160年の時を越え「冷静な頭脳と数理思考」、「暖かい心と応用する力」の意味を結びつけています。そして、この偉大な経済学者から「では、日本の大学(=君)のビジネス教育は、今日の社会的苦難に最良の力で応えられているの

か?」となんだか問いかけられているような気がしてなりません。さらに皮肉なことに、コロナ・パンデミックとロシアのウクライナ侵攻という悲劇は160年前の時代との重なりをもって、わが国の次世代を担う高等教育におけるDX教育の進むべき道をより鮮明に映し出しています。

少し前置きが長くなりましたが、本学会は、これまで蓄積してきた知見をもってすれば、この社会的ニーズに十分に答えられると私は思っています。また、そうでなければならぬとも思っています。なぜなら、よく考えればこれまでのビジネス実務教育は、「冷静な頭脳と温かい心(cool head, but warm heart)の涵養」だったのだと再認識するからです。小職の会長任期も最終年度を迎えることとなりました。変革と苦難の時代ではありますが、未来を担える人材育成を学会員の皆様と共に取り組んで参りたいと思います。

CONTENTS

会長あいさつ	1
ブロック研究会活動報告	
北海道ブロック、関東・東北ブロック	2
中部ブロック、近畿ブロック	3
中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック	4
各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡・新入会員の紹介・第41回全国大会のご案内	5

ブロック研究会活動報告

研究発表一覧の矢印(→)以降に示された番号は次の研究対象領域を示しています(詳しくは学会HPをご参照ください):【1】ビジネス実務教育 1) カリキュラム検討 2) ビジネス実務の教育プログラム開発と教材開発 3) 教育方法の研究、【2】ビジネス実務研究 1) ビジネス環境とビジネス実務 2) 人材育成と能力開発。

また、運営委員一覧は2021年3月現在のものです、◎はブロックリーダー、○はサブリーダーを示しています。

北海道ブロック

●2021年度ブロック研究会

日時: 2022年2月13日(日)
会場: ZOOMによる遠隔方式
のべ参加人数: 14人

●研究発表一覧

和田早代(札幌国際大学短期大学部)
「企業が求める能力と大学のキャリア教育-企業調査を中心に-」
→【1】の2)
原一将(札幌国際大学)
「地元志向が強い学生の職業選択-自動車ディーラーに着目して-」
→【2】の2)

●講演&トークセッション

講演: コロナ禍の実態と取り組みを通じた学び
坂口武氏(小樽境町通り商店街振興組合 事業推進マネージャー兼小樽商科大学非常勤講師)

小樽観光の中心地である境町通り商店街の、コロナ後2年間、どのような変化に陥り、どのように対応してきたのかを坂口氏より講演頂いた後、セッションテーマを「コロナ禍で変わったこと。変わっていくもの。」と設定し、ニューノーマル時代の高校や大学との地域連携についてどうあるべきか、送り手(教育側)と受け入れ側の視点から活発な意見交換が行われました。

●総括: 秋にブロックメンバーに実施したアンケート調査より、教育手法以外のコロナ以降の地域や企業の変化を勉強する機会を作ってほしいとの意見が数件寄せられました。この要望を踏まえブロック研究会では、ブロックメンバーにとって身近な小樽観光を題材にトークセッションを企画・実施することができました。ブロック研究会参加率は61.9%と盛会だったことから、次年度は勉強会を数回開催する方向性をブロックメンバーに共有しました。小規模ながらも、こうした研究会が参加者の連帯感を取り持つことに一役買っていることを実感し、次につなげていく力となりました。

●運営委員一覧

◎千葉里美(札幌国際大学)
○和田早代(札幌国際大学短期大学部)
高橋秀幸(北海道武蔵女子短期大学)
小林純(札幌国際大学短期大学部)
小山田健(北海道文教大学)

関東・東北ブロック

●2021年度(第48回)関東・東北ブロック研究会

日時: 2022年2月12日(土)
会場: Zoomによる遠隔方式
のべ参加人数: 25人

●研究発表一覧

周藤 亜矢子(宇都宮大学大学院)
「秘書の職務における感情労働 -聞き取り調査からの考察-」
→【2】の1)
堀 良平(聖和学園短期大学)
「企業インタビューによるキャリア意識についての考察」
→【1】の3)

●実践事例報告一覧

安齋 徹(清泉女子大学)
「『震災10年』を経た東北のために東京の大学ができること -『陸前高田フィールドワーク』を通じた試み-」
→【1】の2)
岡田 小夜子・池頭 純子(大妻女子大学短期大学部)
「オンラインインターンシップにおける成果と課題」
→【1】の1)

●基調講演

池内健治氏(自由が丘産能短期大学 学長)
「アフターコロナにおける授業設計」

●総括: 今年度も2度の運営委員会とブロック研究会を全て遠隔方式で開催しました。資料をクラウドでやり取りすることにも丸2年経ち情報共有が進みました。あわせて東北勢には負担であった長距離移動が無くなったため心理的・経済的に余裕ができたとは思いますが、逆にコロナ禍から解放された時にどうするのかという点については次年度本格的に取り組まなければならないでしょう。ブロック研究会では今回初めて基調講演に加えて小グループに分かれてディスカッションを行いました。本当のニューノーマルはコロナ禍終息後にこそ試されると思われませんが、特に教材のユニット化や学修成果の可視化が、遠隔で行われているさまざまな試みと相性がよいことを確認できた1年でした。

●運営委員一覧

◎宮田篤(青森中央短期大学)
○齋藤裕美(多摩大学)
○関憲治(昭和女子大学)
大島武(東京工芸大学)
大塚映(湘北短期大学)
上岡史郎(目白大学短期大学部)
金世煥(医療創生大学)
小松由美(目白大学短期大学部)
周藤亜矢子(宇都宮大学大学院)
坪井明彦(高崎経済大学)

中部ブロック

●2021年度ブロック研究会

日時：2022年2月26日（土）
会場：Zoomによる遠隔方式
のべ参加人数：21人

●研究発表一覧

米本倉基（藤田医科大学）
「初年次教育におけるロジカルシンキングの授業検討」
→【1】の3）
福山祐介（三重大学大学院）
「看護職養成大学地域枠入試の現状分析と必要な戦略」
→【2】の2）
坂上牧子（金城大学短期大学部）
「秘書検定準1級面接試験対策講座の実践報告」
→【1】の3）
上野真由美・箕浦恵美子（名古屋女子大学短期大学部）
「学生の主体性を高めるまちづくりの取り組み」
→【1】の2）
谷口正博（愛知東邦大学）
「プロジェクト・イルミネーションイベント企画制作運営における現場体験の提供」
→【1】の3）

●総会

日時：2022年2月26日（土）
会場：Zoomによる遠隔方式
のべ参加人数：45人（委任状31人を含む）

●総括：新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、総会・ブロック研究会ともに、2回目のオンライン開催となりました。参加者が例年より少なくなりましたが、活発な意見交換がなされ、充実した研究会となりました。

●運営委員一覧

◎中川雅人（中部学院大学）
○岡野大輔（金城大学）
○山本恭子（名古屋学芸大学）
上野真由美（名古屋女子大学短期大学部）
梶山亮子（千葉経済大学短期大学部）
坂田裕介（藤田医科大学病院）

近畿ブロック

●2021年度（第58回）近畿ブロック研究会

日時：2022年2月19日（土）
会場：遠隔事務局（Zoomによる遠隔方式）
のべ参加人数：23人

●研究発表一覧

福井就（大手前短期大学）
「東南アジアからの留学生の実態及び留学生募集の有効性について-ミャンマーを例として-」
→【2】の1）
水野武（摂南大学）
「アクティブラーニング科目の成果指標となる可能性について-ネットワーク分析に何ができるか-」
→【1】の3）

●研修会

「授業効果検証のための基本的な統計的研究方法」
講師：河崎 美保先生（静岡大学准教授、博士[教育学]、
専門は教育心理学）

●その他の活動報告：助成研究報告

（最終報告）
北村雅昭（大手前大学）
「大学生を対象としたキャリア・アダプタビリティ尺度の開発」
（中間報告）
高松直紀（大阪樟蔭女子大学）、児島尚子（大阪樟蔭女子大学）、苅野正美（奈良女子大学大学院）、若生真理子（滋賀短期大学）、福井就（大手前短期大学）、樋口勝一（甲子園短期大学）
「秘書技能検定が大学生のキャリアレディネスに及ぼす効果」

●総括：近畿ブロックとしては2回目のオンライン開催となり、前年よりさらにスムーズに運営ができました。助成研究報告は時間に余裕が生まれたため質疑も行われました。研究発表はいずれも意欲的なものであり、今後の展開が期待されます。研修会では、基本的ではあるものの決して易しくはない知識を、とても分かりやすく講義いただきました。

●運営委員一覧

◎樋口勝一（甲子園短期大学）
○福井就（大手前学園）
○坂本理郎（大手前大学）
掛谷純子（京都女子大学）
水野武（摂南大学）
高松直紀（大阪樟蔭女子大学）
北村雅昭（大手前大学）
苅野正美（プール学院短期大学）
岩井貴美（近畿大学）

中国・四国ブロック

●2021年度（第37回）中国・四国ブロック研究会

日時：2021年8月28日（土）
会場：Zoomによる遠隔方式（当番校：山陽女子短期大学）
のべ参加人数：11人

●研究発表一覧

佐々木公之（中国学園大学）
「PBLとゼミ教育にYouTubeを導入しての効果検証」
→【1】の3）
名和晋也（岡山県立津山商業高等学校）
「秘書技能検定の問題を学ばせる事により育成できる能力-高校生アンケート結果より-」
→【1】の3）

●ゲストスピーカーによる講演などは今回、中止。

●新規プロジェクトとアンケートに関して

学外からの競争資金の獲得や、他大学や研究機関とのグループ研究が奨励される昨今の状況を鑑み、日本ビジネス実務学会・2021年度中国・四国ブロック共同研究助成（共同研究1件のみ・15万円）を募集することを決定し、ブロック会員に通達しました。また、ブロック研究会の活性化を図るため、研究会の開催日程・運営方式を今後変更するか、情報交換のための「オンライン交流会」を開催してみてもどうか、等について、ブロック会員から意見を募るオンライン・アンケートを9月以降、ウェブ上で行いました。

●その他の活動報告

同日に第16回学生プレゼンテーション大会
（Zoomによる遠隔方式）

徳島文理大学短期大学部1名、山陽女子短期大学1名、中国学園大学1名、中国学園大学1名の合計4名の学生が参加。詳細についてはブロック会報・第35号をご覧ください。

●総括：各大学とも、遠隔方式のやり取りにも慣れてきており、学生プレゼンのリハーサルにおいてもブレイクアウトルームを活用するなど、能率的な運営となりました。今回、研究会そのものの参加人数や研究発表の件数は少なかったものの、上記にあげたブロック共同研究助成によって今後、共同発表や個人での発表が増えることが予想されます。また、学生プレゼンはこのブロック研究会の特筆イベントともなっていますが、これは従来通り、素晴らしいパフォーマンスを得ることができました。

●運営委員一覧

◎堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）
○関由佳利（高松短期大学）
吉田順子（広島女学院大学）
加渡いづみ（四国大学短期大学部）
佐々木公之（中国学園大学）
佐藤麻衣（高松短期大学）

九州・沖縄ブロック

●2021年度（第64回）九州・沖縄ブロック研究会

日時：2022年4月9日（土）
会場：Zoomによる遠隔方式

●研究発表一覧

井上奈美子（福岡県立大学）
「元炭鉱地域の男女共同参画アンケートに見る現状と課題」
→【2】の2）
石橋慶一（中村学園大学短期大学部）
「中村学園大学短期大学部における組織的編入学支援システムの構築とその課題」
→【1】の2）
見館好隆（北九州市立大学）
「福岡県北九州市で活躍する技能実習生等外国人労働者の質的調査」
→【2】の1）

注：本会報76号が発行される3月時点での予定ですので、変更・追加があった場合、次号77号で補足いたします。

●ワークショップ・ゲストスピーカーによる講演など

「ニューノーマル時代に必要なキャリア教育・就職支援について」
講師：中原淳二氏（福岡県プロフェッショナル人材センター・サブマネージャー）、矢島慶佑氏（株式会社i-plug・大学事業チームマネージャー）、加賀れい氏（株式会社アトラエ・採用担当）

●運営委員一覧

◎見館好隆（北九州市立大学）
○江藤智佐子（久留米大学）
天野祿郎（MC&フューチャーコンサルティング）
有馬恵子（鹿児島女子短期大学）
石橋慶一（中村学園大学短期大学部）
井上奈美子（福岡県立大学）
大重康雄（志学館大学）
藤村やよい（久留米信愛短期大学）

各委員会からのお知らせ・事務局からの連絡

■総務・企画委員会

委員長 関憲治（昭和女子大学）

本学会が2019年度に新設した「ビジネス実務研究助成」では、共同研究(A)1件及び個人研究(B)4件の申し込みがあり、審議の結果、共同研究(A)1件及び個人研究(B)3件を採択しました。なお、助成額自体は少ないものの、この助成制度自体は、若手の先生方や実務家から転身して日が浅い先生方のスタートアップ支援が主な目的ですので、継続研究を認めないという条件や、テーマの異なる研究であっても同一の正会員は2年連続で助成を受けることができないといった条件があります。

今後とも若手の先生方や実務家から転身して日が浅い先生方からのご応募をお待ちしております。

■研究推進委員会

委員長 見館好隆（北九州市立大学）

2021年8月16日にオンラインにて「M-GTA講座」を実施しました。質的研究に挑む会員が増えることを祈っています。2021年6月12日、13日に開催の全国大会においては、学会奨励賞を復活させました。奨励賞は研究促進に直接つながりますので、トラブルなく審査を経て2名の受賞者を生み出したのは嬉しい限りです。また、2日目の基調講演をワークショップ形式にし、オンラインだからこその、新しい教育の在り方の「体験」を提供しました。FD活動につなげることはもちろん、その成果の論文化などにもつながればと思います。最後に、運営委員全員で総力を挙げて、かつてない詳細な全国大会報告書を作りました。2022年度以降の大会運営に寄与できればと思います。

■編集委員会

委員長 手嶋慎介（愛知東邦大学）

『ビジネス実務論集 No. 40』への投稿は13編、審査通過は7編でした。最終的には研究ノート2編、資料4編の計6編（うち理論・調査研究2編、教育開発研究4編）となりました。残念ながら、例年よりも投稿数が少なく、論文としての掲載もありませんでした。次号、より多数の投稿をよろしくお願いいたします。

■広報委員会

委員長 堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）

学会報75号を、予定通り2021年9月に発行し、次の76号（本号）を2022年3月に発行しました。また、Facebook等のSNSによる情報発信を継続しています。

■事務局

事務局長 河合晋（岐阜協立大学）

所属、郵送先住所、会員種別、登録メールアドレスに変更があった場合、または退会ご希望の場合は、学会事務(business.jitumu@gmail.com)までご連絡してください。円滑な事務局運営にご協力をお願いいたします。

新入会員の紹介（2021年7月～2022年2月）

■正会員

(氏名・敬称略)	(所属先)	(所属ブロック)
星 剛史	ウェルタクトリサーチアンドテクノロジー(株)	中部
谷口正博	愛知東邦大学	中部

■学生会員

(氏名・敬称略)	(所属先)	(所属ブロック)
柏木葉子	國學院大学大学院	関東・東北

第41回（2022年度）全国大会のご案内

会場：愛知東邦大学

統一テーマ：ニューノーマル時代の新しい教育

開催形式：オンライン（Zoom）

スケジュール（予定）：

2021年6月11日（土）9:30-17:45

基調講演、2022年度総会、研究発表

翌6月12日（日）9:30-12:30

シンポジウム（ブレイクアウトルーム機能を活用）

実行委員長：手嶋慎介（愛知東邦大学）

事務局長：中川雅人（中部学院大学）

詳細については、2022年2月1日以降、各会員にメール配信されている第41回全国大会・第1号通信または学会HPをご覧ください。



日本ビジネス実務学会会報 No. 76

日本ビジネス実務学会・広報委員会

（堀口誠信・千葉里美・小松由美・中川雅人・坂本理郎・佃昌道・江藤智佐子）

広報委員会専用 e-mail: 2019jsabs.publicrelations@gmail.com

JSABs
Japan Society of Applied Business Studies